

## 【介護から自分を知る⑦】

東海社会福祉科学研究所  
大北 秀雄

### 5 介護の現状⑤

一人生活の高齢者は、何かの病気になると生活リズムが直ぐに変化してしまいます。一人だけで生活することは、健康面で特に不安がなければ自分のライフスタイルを有意義に継続して暮らすことができますが、何か不安なことが起こった場合、また感じることもある場合は、そのこと以外のことも含めて、いろんなことを想定し悲観的になりやすいところがありますので注意してください。

高齢者家族の説明を前回までしましたので、それを参考に検討していただければよいと思います。

自分の将来について、施設入所を直ぐに考えてしまいますが、現実には待機者が多くあり希望したら直ぐに入所できるとはいえないのが現状です。また、病院での入院期間についても一定の期間しかいられないという現実もあります。有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅に入るには、金銭の問題がありますので注意することが必要ですし、介護サービスの内容が施設によって異なりますから、その施設の特徴を確認することが必要です。

自分のこれからの生活希望をどの程度の範囲に決めているかにより、その施設の水準とのバランスを考慮しながら納得の生活になると思います。

いろんな面で満足ができる施設にあたることはほぼ難しいと理解する必要があります。どこで納得できるかですから充分検討することが必要ですが、一方あきらめの部分も存在することも現実です。

自分の収入や家族の支援により入所する施設を決めることも、現実には多いですし、空き状況によって決めている場合も多いです。

施設の状況を詳しく客観的に分かることは、現実には難しいところがあります。施設の真の実態を判って説明する職員がいても、現実には説明を受ける方が、何を聞いたらよいのかが分からないこと、どこに満足度を求めることがベターなのかが分からないことなどがありますし、説明する方にも問題がある場合がありますので注意することが必要です。できれば専門家に一緒に行ってもらいか、事前に何を聞くのがよいのかを説明していただくことが必要です。

特に特別養護老人ホームでの生活は、長い人であれば10年以上ですし、最後の住処となるのが一般的です。本当に最後は施設入所を希望するのであれば、いろんな施設を見学することをお勧めします。ただし、見学の仕方としては、本当に施設に入所して数年間を生活するところであるとの視点で見ることが必要です。数人で施設見学をされる場合は、人の意見はあくまでも参考にし、施

設職員の話を聞き、理解できるまで質問することが大切です。人の人生ではなく自分の人生なので慎重な気持ちと態度が必要です。施設に入所してから悩んでも遅いですし、特別養護老人ホームなどの施設は、自由に変わることはできないですから、事前に了知することが本当に大切です。